

3. 3 生物部

(1) 平成29年度の活動概要

本年度は、1年生に4人、2年生に5人計9人の部員が在籍し、ホタルの飼育と死因の研究、ヒドラの触手数の研究、イタセンパラの飼育と普及活動等を行い、年間を通し活動ができた。AITサイエンス大賞、課題研究交流会、理科研究発表会、科学三昧、愛知県高等学校文化連盟で発表した。

(2) 参加活動

ア ホタルの夕べ・星の夕べ (本校)

一宮市の平成ホタルの会に協力していただき、ホタルの幼虫を分けていただいた。その幼虫を育て、地元の小学生(親子)を対象にホタルの鑑賞会を行い、そのあと星空の観望会を地学部と共催で行った。

イ SSH東海フェスタ2017 (名城大学)

ウ 文化祭発表 (本校)

錯視の展示と解説をした。校内の各所に生物に関するクイズを設置しスタンプラリーを行った。スタンプは木曽川に棲む生物をテーマに生物部員が作成した。

エ イタセンパラの飼育と普及活動

イタセンパラの飼育にあたり、岐阜大学の伊藤健吾先生よりイタセンパラの生態についての講義を受けた。ホタルの夕べ・星の夕べで近隣の小学生と保護者へイタセンパラの紹介を行い、文化祭では生徒と保護者に対しても紹介を行った。

オ 課題研究交流会 (名古屋大学)

ポスター発表「ホタルの死亡原因について」

カ 岐阜県水産研究所の見学

イタセンパラの生態に関する講義を受けた後、施設を見学した。

キ 第16回 AITサイエンス大賞 (愛知工業大学)

社会科学・地域づくり部門「ハイケボタルの死亡原因について」発表 努力賞

ク 科学三昧 in あいち 2017 (岡崎コンファレンスセンター)

ポスター発表「ハイケボタルの死亡原因について」、「ヒドラの触手数の決定要因」、「小型淡水魚の行動調査」

ケ ミズベリング会議 (一宮市役所)

コ 愛知県高等学校文化連盟自然科学部研究発表会 (名古屋市科学館)

ポスター発表「ヒドラの触手数の決定要因」

(3) 成果と課題

2年生の科学三昧で全員が発表することを目標にしてきたが、1年生も未完成ではあるが積極的に発表を行った。今年度は理科研究発表会にも参加し、発表の場に多く参加できた。昨年度から地域との交流の一環として、環境省より木曽川に生息する国の天然記念物であるイタセンパラを譲り受け、飼育観察と普及活動を始めた。イタセンパラの飼育と普及活動によって、岐阜市の水産試験場やミズベリング会議など新たな交流の場が増えたことで、生物部にとっては大きな一歩になった。



小学生の前で説明する生物部員